

## 技術屋の心眼

E・S・ファーガリン 著

藤原 良樹・砂田 久吉 訳



46判・286ページ。  
定価3200円(税込)。  
平成7年7月17日初版発行。  
同年7月20日受付。  
〒152 東京都目黒区  
碑文谷5-16-19  
平凡社発行。  
Tel.03-5721-1254

蒸気機関であれ飛行機であれ、人間によって造られた物は、全て科学の恩恵を受けているということに異論を唱える人はいだろう。しかし、あらゆるものは、それを考え出した人の心の中にある強いイメージが起源であり、それを現実の形にするための設計という過程では、直感、センス、あるいは特定の好みなどという、およそ科学的でない思考方法による決定に多く存在している。そのような重大な事実を認識することからこの本は始まる。

機械のエンジニアであり、歴史学の教壇に立った時期もある筆者は、ルネサンスから現代に至るまでの多数の事例を示しながら、設計という工学的な行為においては、技術者が心の中の『心眼』という器官を通して行う、視覚的で非言語的思考がきわめて重要であることを切々と論じている。また、こうした工学の本質を無視し、数式などの解析的な方法のみを偏重した近代の工学教育が、数学と現実の世界の区別ができない無知な学生を生み出してしまう危険性について警告を与えている。

訳本特有の文章だが内容は深く鋭い。現代の技術者が忘れかけている工学の基本、技術者の原点というものを、この本との出会いを機会にもう一度考え直すべきかもしれない。ぜひ原書をお薦めしたい。 【夕】

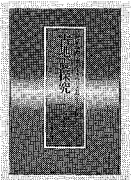
## 古地震探究

—海洋地震へのアプローチ

萩原 尊禮 編著

山本 武夫・太田 陽子・

大長 昭雄・松田 時彦 著



A5判・306ページ。  
定価5974円(税込)。  
平成7年7月20日初版発行。  
同年7月26日受付。  
〒113 東京都文京区  
本郷7-3-1  
東京大学出版会発行。  
Tel.03-3811-8814

我が国において過去に何時・何処で、どの程度の規模の地震が起こったのかを知るには、理科年表(国立天文台編纂)に「日本付近の被害地震年表」という歴史地震の一覧表があり、その疑問に答えてくれる。しかし、地震計による地震観測体制整備以前の地震は、古文書の記録からその表が作成されているのが現状である。

本書では、これらの古地震のうち1096年から1711年の7つの地震について、根拠となった古文書を詳細かつ緻密に検討し、現地調査も行って地震の有無、震源地や被害の程度すなわち規模を一つ一つ丹念に検証していった結果が述べられている。特に正徳三(1331)年、七月三日、紀伊においてM=7以上で起こったとされている地震(理科年表の最新版にも掲載されている)が、実は「太平記」における文芸上の所産であった可能性が高い(即ち史学的、地学的、地震学的にみて信憑性が低い)と結論づける第2章は圧巻である。

「古地震」や「続古地震」に引き続き出版された本書は、20年に及ぶ「古地震研究会」の活動の締めくくりとして、特に検証が困難とされる海洋地震を取り上げた点に特徴がある。 【む】